

令和5年度 第2回 静岡市健康福祉審議会 児童福祉専門分科会 議事要旨

1 日 時 令和5年12月21日（木）午後6時30分～午後7時40分

2 場 所 静岡市役所 清水庁舎3階 第1会議室

3 出席者 （委員）田宮会長、石川委員、大谷委員、荻野委員、小寫委員、
小林委員、土屋委員、長阪委員、南條委員、早川委員、
保下委員、増田委員、松田委員、宮下委員、吉田委員

（事務局）橋本子ども未来局長、片井子ども未来局次長、
萩原参与兼子ども未来課長、
片山子ども未来課課長補佐兼企画係長、繁竹青少年育成課長、
澤本子ども若者相談担当課長兼子ども若者相談センター所長、
萩原参与兼幼保支援課長、齋藤こども園課長、
松下参与兼子ども家庭課長、大石児童相談所長、
その他事務担当職員

4 傍聴者 なし

5 議 題

（1）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について

6 報告事項

（1）「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の進捗状況について

（2）「子育て・教育環境の充実に係る研究会」の進捗状況について

7 会議内容

■議題（1）保育所等の設置認可等に係る意見聴取について

○松田委員（質疑）

3点伺いたい。1点目は、定員の見直し減についての基準は今まで通りの考え方から変更がないかお聞きしたい。2点目は、静岡長田地区の東新田ひばりこども園の1号定員の設定について、市の条例に基づく変更ということであったが、認定こども園の中で2号認定から1号認定への変更が生じる場合には、1号定員を設けても差し支えないのかお聞きしたい。3点目は、令和5年度の計画上の子供の人数と、実数値があれば今後併せて記載していただけるとありがたいと感じる。

⇒子ども未来課担当者

1点目の定員見直しにおける基準の考え方について、従来保育定員（受け皿）を確保するという観点から、保育の定員を増やす、維持するという意識してきたところであるがここ数年、特に中山間地において、保育園、こども園の定員を減らしたいという要望を何点か受けている。基準としての考え方としては、市内14区域の中で、供給と需要がどういう計画になっているか、過不足が発生する恐れがないかという部分を大きなポイントとして、直近2年間の利用者等を参考として、要望があった園の方々と協議している。

園の利用者の状況については、4月時点と、年度末、例えば1月時点の利用者数は異なっており、年度の後半に向けて利用者が増加する傾向あるため、直近2年の実績というものは、年度の後半、1月時点での利用者の実績を踏まえて、園が要望する定員の減少の数が妥当な定員となるかを協議している。定員見直しにおける基準の考え方としては、ここ数年の実績を踏まえて判断している。

2点目については、例えば市立こども園で新たに1号定員を設ける場合については、3人まで設けることが条例上可能である。

3点目のご意見については、実数値を今後報告するか否かについて事務局の方で検討させていただきます。

⇒松田委員

3点目について、具体的な実数値というよりも、計画上の数字に対してのパーセンテージなどで差し支えないのでご検討いただきたい。

また、1点目の定員の変更については、今まで通りの考え方でよいのか。

⇒子ども未来課担当者

定員変更の考え方については、3~4年前に示した考え方と少し異なっている。先ほど回答したとおり、直近2年間の実績値を参考に推定するという考え方は、今年（R5）に入っ

てから改めて定めた基準である。利用者、園の関係者にとってより納得いただくような基準となっている。

○吉田委員（質疑）

定員の過不足について、2号や3号の保育時間が長い児童の定員確保は、幼稚園から認定こども園への移行を促進するということであったが、市から園に具体的にどういう働きかけをしているのか。また、幼稚園は認定こども園に変わることによって、どういうメリットがあるのか。

⇒子ども未来課担当者

まず、移行のメリットについてであるが、保護者の方々にとって、例えば仕事を辞めた場合で保育の必要性がなくなった際にも、引続き1号児として受け入れることができ、利用者側にとってメリットがある。

また、園としても、子供の数が減少しており、園の利用者も今後減少が見込まれる中で、従来通りの幼稚園として運営を続けた場合に今後運営が厳しくなると想定される。その際に、保育定員を新たに設定することや、保育事由がなくなった園児を引き続き1号児として受け入れるといったことが利用者の増加にもつながるため、園のメリットにもつながると考えている。

次に、園への具体的な働きかけについてであるが、園の関係者に対しては、認定こども園へ移行する場合の定員の特例について説明するなど、認定こども園のメリットを周知するほか、区域によっては保育定員の増加についての打診を各園へ直接働きかけることもある。

○宮下委員（質疑）

子供の数が減少している中で、1号の定員を減らしたいという施設型給付の幼稚園や認定こども園が増えているという印象。その中で、2号定員については各地域のニーズの過不足がプラスであった場合に、園の希望で増やすことは難しいのか。

⇒子ども未来課担当者

教育保育については、需給のバランスをとることが非常に重要である。委員のご質問のように、供給過多の地域に新しい園を設置したいという問い合わせをいただくこともあるが、需給バランスを保つ関係から、新しい園の新設は必要ではないことをご理解いただいたうえでお断りしている。

同様に、定員についても、供給過多の地域については定員増の相談をいただいた際には、今の定員を維持していただきたいという話をさせていただいている。

■報告事項（1）「子ども・子育て支援に関するニーズ調査」の進捗状況について

○吉田委員（質疑）

回答がない方へのフォローはあるのか。例えば、静岡市の公式LINEを使って促進するなど何か方法があればやったほうがよいのではないか。

⇒子ども未来課担当者

公式LINEや、ホームページ等によるフォローを検討させていただきたい。

■報告事項（2）「子育て・教育環境の充実に係る研究会」の進捗状況について

○松田委員（質疑）

今後の研究会は、どのように進めていくのか。重点的に検討すべき三つの柱とあるが、これを精査して、どれを優先して取り組んでいくのかを決めるのか、または全てを網羅するような事業を立案するのといった今後の見通し等をお聞かせ願いたい。

⇒子ども未来課担当者

今回研究会を進める中で、来年度から取り組めるもの、中長期的に取り組むべきもの、市だけでは難しいものという分類分けを行った、

来年度予算要求している事業について、現時点では全て予算が確保されるか未定ではあるが、当該研究会は来年度以降も継続していく予定である。また、事業を立案しただけではなく、指標や目標値を定め、しっかりと進捗管理をしていくことも、研究会に課せられた課題であると認識しているため、中長期的に取り組んでいきたいと考えている。

○宮下委員（意見）

今後さらに推進するにあたって、企業に対してアプローチし、企業の協力があって働き方が改革され、子育てが充実していく部分もあるかと思うため、企業に対する働きかけや研究会の委員に経済界の方々にも加わっていただき、みんなで考えていくことも必要ではないかと感じる。

⇒子ども未来課担当者

委員のご指摘のとおり、仕事と子育ての両立については公だけの取組みには限界がある。今年の11月議会において、仕事と子育ての両立については、民間企業の方々の力も借り、それを市が下支えしていく形で進めていく必要があると市長も答弁している。

今回の研究会は、5局17課という体制となっており、市民局において、男女の働き方については、民間企業向けのセミナー実施等を予定している。また、仕事と子育ての両立だけではなく、例えば結婚支援などにおいても、民間企業にも協力していただくような事業も検

討している。委員からのご指摘については、貴重なご意見として、今後も民間企業を巻き込んで進めていきたい。

○小林委員（質疑）

放課後児童クラブについては、来年度の途中から一部のクラブを民間企業へ委託するというところで準備を進めているところであるが、子ども未来課として民間企業に委託するにあたり、どのように進めていくのかお答えできる範囲で教えていただきたい。

⇒萩原参与兼子ども未来課長

現在、予算要求の段階のため、具体的な説明が難しいが、児童クラブの利用が増加しており、現在の受託者からは体制的に厳しいという声をいただいているところ、負担軽減という面からも、来年度以降一部民間の事業者を受託をできないかと検討している。

他の自治体で児童クラブの運営の受託の実績があるような業者を、提案方式（プロポーザル方式）にて選定することを想定しているが、一つ一つのクラブを民間事業者へ委託すると、財政的にも非効率なため、ある程度まとまった数のクラブを受託をできないかと検討しているところである。

○石川委員（意見）

安心して子育てできる環境という面では、仕事をしている方ばかりではなく、仕事していない方や、病気の方もいるため、様々な環境を含めて、みんなで子育てを支えてもらえるという視点について入れていただければと感じる。

⇒子ども未来課担当者

委員ご指摘のとおり、発達の気になる子へのケアといった部分などについては、静岡市としても大きな課題だと認識している。特に保育の現場では、発達が気になる子の割合が年々増加しているという現状もあり、本市は、SDGsの理念により誰一人取り残さない市政を合言葉に進めておりますので、単純に共働き世帯だけを支援するのではなく、様々な世帯についての子育て支援をしていきたいと考えている。

■田宮会長（総括）

以上で会議を終了する。